

## 眼科 初期研修カリキュラム

### I 目標 (GIO)

眼科診療の基本を身につけ、主な眼科疾患について基本眼検査・処置・手術を含めて幅広く学び、眼科領域の基本的な診療ができることを目的とする。

### II 行動目標 (SBOs)

1. 以下の検査に関し、①適応の判断 ②手技の実施 ③結果の解釈 ができる。  
視力検査、眼圧検査、細隙灯検査、眼底検査、視野検査、蛍光眼底検査、光干渉断層計検査
2. 白内障手術、外眼手術、硝子体手術、緑内障手術の基本的な流れと使用器具を理解し、器械出しや助手を滞りなく務めることができる。
3. 眼瞼皮膚、結膜の縫合、ドレナージ法の基本を理解し、実践することができる。
4. 結膜疾患、ドライアイ、アレルギー;1年目:代表的疾患(アレルギー性結膜炎、ドライアイ、結膜弛緩症)を理解し、病態生理を説明できる。2年目:代表的疾患の検査、および治療法がわかる。
5. 角膜疾患;1年目:代表的疾患(点状表層角膜症、角膜変性、水疱性角膜症、円錐角膜)を理解し、病態生理を説明できる。2年目:代表的疾患の検査、および治療法がわかる。
6. 水晶体疾患;1年目:白内障の病態生理が説明できる。手術前の検査、手術時の器械出しができる。2年目:白内障手術の方法を説明できる。
7. 緑内障;1年目:主な緑内障(開放隅角、閉塞隅角)の病態生理が説明できる。2年目:緑内障の治療法、手術療法が説明できる。アプラインション法、隅角鏡が使用できる。急性緑内障発作に対応できる。
8. 網膜硝子体疾患;1年目:代表的疾患(糖尿病網膜症、黄斑円孔、網膜剥離、加齢黄斑変性)が理解できる。眼底が見えるようになる。2年目:代表的疾患の検査法、治療法がわかる。蛍光眼底検査ができる。
9. 視能矯正(斜視・弱視)、小児眼科;1年目:視力検査が正しくできる。斜視・弱視を理解できる。2年目:眼鏡処方ができる。白色瞳孔の鑑別ができる。
10. 眼感染症;1年目:結膜炎、角膜潰瘍がおおよそ鑑別できる。2年目:眼感染症(特に術後眼内炎)の治療に必要な薬剤が理解できる。
11. 眼窩・涙道・眼形成;1年目:外眼部、涙器疾患の鑑別ができ、CT、MRI 画像がおおよそ読める。2年目:基本的な切開、縫合、止血手技を習得する。
12. ぶどう膜炎;1年目:細隙灯顕微鏡、倒像鏡、隅角鏡を使用し炎症を診ることができる。2年目:ぶどう膜炎の治療方針が立てられる。
13. 神経、視路疾患;1年目:視路と瞳孔繊維経路を理解し、視野と病変・疾患との関連がわかる。2年目:視神経炎の診断と治療ができる。
14. 上級医・指導医の指導監督のもとで病状説明ができる。

### Ⅲ 方略

#### 外来診療

常勤医師や視能訓練士の指導のもと、予診や検査の補助を行うことから始め、やがては基本的な手技などを独立して行えるようにする。

#### 手術

すべての眼科手術に助手として参加する。

#### 学術活動

筑波大学附属病院眼科の臨床カンファレンス・抄読会に参加し、ローテーション中 1 回発表する。また、地方会や眼科勉強会、眼科学会に積極的に参加する。